

建築物名称	富士市立富士川第二小学校校舎改築工事
受付日	令和2年7月30日
建物所在地	富士市北松野字中川原1963番6の内 他10筆
構造規模等	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造／地上4階／ 延床面積7,214.56平方メートル／増築
建物用途区分	学校
建築主	富士市長 小長井 義正
設計者	株式会社平柳建築設計事務所 平柳 雅人
工事完了予定日	令和3年11月30日

CASBEE® - 建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士市立富士川第二小学校校舎改築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市北松野字中川原196番6の内 他10筆	構造	RC造
用途地域	第二種中高層、防火地域 指定なし	平均居住人員	360 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年06月23日
敷地面積	16,253 m ²	作成者	平柳 雅人
建築面積	2,132.93 m ²	確認日	2020年06月26日
延床面積	3,670 m ²	確認者	小長井 義正



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

- ①参照値
- ②建築物の取組み
- ③上記+②以外の
- ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 2.5% ≤ [屋光率]。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆を全面的に採用している。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上。	Q2 サービス性能 教室の天井高が2.7mを超えている。 主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m = 0.60。 [BEI][BEI _m] = 0.76。	LR2 資源・マテリアル 節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器など)などを用いている。 躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用し、GL工法も採用している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して90%。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	富士市立富士川第二小学校校舎改築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度								
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6	/5				ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.1	/5				よい		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5				ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5				がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		3.6			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming) ■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②屋光利用設備が2種類以上ある。 ④主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI _m =0.60。 ⑨[BEI][BEI _m]=0.76。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体+軽鉄+仕上材のテールを採用し、GL工法も採用している。 ⑬ODP=0かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が1以下)を用いた断熱材等を使用している。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して90%。		Q-1	2	2.1	2.2	① 外皮性能 ② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔	3.6
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	
					2.2.2	④	
					2.2.3	④	
					2.2.4	④	
					2.2.5	④	
					2.2.6	④	
		Q-3	1			⑤	
			3	3.2		⑥	
		LR-1	1			⑦	
			2			⑧	
			3			⑨	
			4	4.1		⑩	
				4.2		⑩	
		LR-2	1	1.1		⑪	
			2	1.2	1.2.1	⑪	
					1.2.2	⑪	
			2	2.1	2.1.1	⑫	
					2.1.2	⑫	
					2.1.3	⑫	
					2.1.4	⑫	
					2.1.5	⑫	
					2.1.6	⑫	
			3	3.1		⑬	
				3.2	3.2.1	⑬	
					3.2.2	⑬	
					3.2.3	⑬	
		LR-3	1			⑭	
			2	2.2		⑮	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster) ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。 ⑰節水型器具を採用している。 ⑱浸水の危険性がない。		Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	
					2.1.2	⑯	
				2.4	2.4.1	⑰	
					2.4.2	⑰	
					2.4.3	⑰	
					2.4.4	⑰	
					2.4.5	⑰	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design) ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高:3.900 m, 4.000 m。 ⑳0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし。		Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	
			3	3.1	3.1.1	⑲	
					3.1.2	⑲	
		Q-3	3	3.1		㉑	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature) ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) 特になし。		Q-3	1			⑳	
			2			㉒	
			3	3.2		㉓	
		LR-3	2	2.2		㉔	